

# 秋田県書道連盟会報

第 133 号

秋 田 県 書 道 連 盟

事務局 深 井 春 祥

発行人 後 藤 武 之

編集 広 報 部

(題字：長 沼 雅 彦)

<https://akita-shoren.jp>

秋田県書道連盟 会長

佐 川 博 之

何年経っても色褪せず、記憶に残る本がある。もちろん内容は断片的ではあるが、その昔、共感を覚えたり、感銘を受けたくんだり、時を超えて突然、頭に浮かんだりする。その後の自分の人生観や人格形成に、色濃い影響を与えてくれた証しなのだろう、とも思う。

作家の五木寛之さんが初めて世に出したエッセー集『風に吹かれて』は、私にとってそんな一冊である。昭和42年に『蒼ざめた馬を見よ』で直木賞を受賞したばかりの五木さんが、30代半ばの人生観などを綴った珠玉の一冊だ。

私がその本を手にしたのは、大学進学で上京した昭和51年のことだった。五木さんは代表作の一つである『青春の門』で吉川英治文学賞を受賞。『筑豊編』『自立編』『放浪編』などのシリーズを次々に世に送り出し、すでに押しも押され

もせぬ大作家の地歩を築いていた。功成り名を遂げた作家が、学生時代には貧乏を絵に描いたような生活を送っていたことや、

講演する五木寛之さん  
(8月6日・あきた芸術劇場ミルハス)

五木さんはそのときのことを、「先生は）やあ、バスに乗ってるな。いくらか景気がいいんだね。良かった」といった優しい表情であり、「ぼくは今ちよいと景気が悪くてね。今日は歩きさ」と肩をすくめ自嘲気味のよ

作家として目の目を見るまでの山あり谷ありの日々について、『風に吹かれて』には赤裸々に綴られていた。学生時代に、いよいよ食い詰めた五木さんが、製薬会社で売血をして糊口をしのいでいたころの一文が、とりわけ印象的だ。血を売った後、気分がすぐれず、高田馬場駅から早稲田大学行きのバスに初めて乗ったときのこと。バスに乗ること自体をせいたくと感じていた五木さんが、窓の外に恩師の後姿を見つけた。くちやくちやの袋から、紙巻きたばこを一本取りだし、それを半分にちぎって火をつけるような、普段から決して豊かではない暮らしぶりだった恩師と、偶然目が合ったのだった。

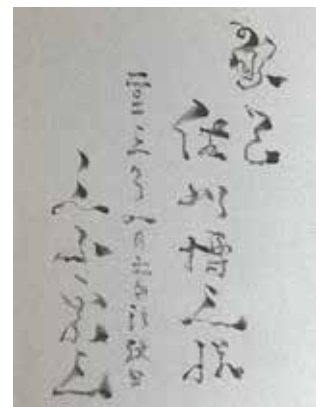
血してお金を得てもバスには乗らないと決めた、という。その一文に接して以来、氏のエッセーのファンになった。

学生時代は雲の上の存在で、直接お目にかかる機会など、永遠にないだろうと思っていたのだが、この3年で2度も講師として秋田にお招きすることができた。ことし8月には講演前夜に食事を共にさせていただいた。

まもなく93歳にならんとする尊敬する作家の前に、緊張どころか、うれしさが先に立ち、若い頃にむさぼり読んだ『風に吹かれて』を持参して、夢中で話をさせていただいた。食事を一緒にした3日後。五木さんは1万2千回を超える長期連載で知られる日刊ゲンダイのコラム『流れゆく日々』に、その夜のことをお書きになっていた。

「(前略)佐川さんはお若い頃、私の最初のエッセー集『風に吹かれて』を愛読したものだ、と、古い古いその本を持参してこられていた。すでに半世紀以上も昔のことだが、それを見せてくれてジンとくるものがあつた。1960年代か、70年代初めの頃の本だ。一冊の本が年月を超えて人をつなぐというのは、ある種の奇蹟といつていい」(『流れゆく日々』より抜粋)。

こちらこそ奇蹟である。加えて古びた本にサインまでいただいた。ファン冥利に尽きる真夏の一夜だった。



五木さんが筆で書いてくれたサイン

うでもあつたと書いた。そうした恩師との無言の会話の後、五木さんは身の置き場がなくなり、その後は売

# 令和7年度 定期総会

日時 令和7年4月29日（火・祝日）  
10時～11時半  
会場 イヤタカ（秋田市）

本年度定期総会が次の通り開催されました。  
議長には佐々木青爛さん、議事録署名には佐藤聖賢さんが選出されました。令和6年度会務報告・決算報告、令和7年度事業計画・予算について承認されました。

## 次第

- 1、開会
- 2、物故者への黙祷
- 3、会長あいさつ
- 4、理事長あいさつ
- 5、議長選出
- 6、議事録署名選出
- 7、議事
- 8、議長解任
- 9、閉会



総会の様子



和やかに行われた懇親会



長沼理事長あいさつ



佐川会長あいさつ



議長に選出された佐々木青爛さん



会計監査の報告をする小松清峯さん

美術表装一式  
掛軸、和額、屏風、襖

## 中山表具店

〒011-0917 秋田市飯島道東二丁目4番10号

TEL 018 (846) 8496

秋田県唯一の  
月刊教育書道誌



～おかげ様で創刊 72周年～

## 書 友 社

〒010-0954 秋田市山王沼田町 11-11

TEL 018-862-3484 FAX 018-862-3485

MAIL shoyusha-akita@outlook.jp





# 令和7年度理事会

日時 令和7年5月11日(日)

13時〜

会場 イヤタカ(秋田市)

本年度理事会が次の通り開催されました。

主な案件は、理事長、副理事長、常任理事、部長、副部長等の選出について。

## 次第

- 1、開会
- 2、あいさつ
- 3、理事長の選任
- 4、新理事長あいさつ
- 5、副理事長の指名
- 6、常任理事の選任
- 7、副理事長、各部長のあいさつ
- 8、閉会

長沼前理事長からは、

「12期(24年)と長い間理事長を務めることができたのも皆様のおかげだと深く感謝している。この間、創立40周年記念甘肅省書法家協会、秋田県書道連盟聯展、創立50周年記念、60周年記念を迎えられ充実した日々であった。秋田県



創立60周年記念作品集を手に24年間を振り返る長沼前理事長

新春書初め席書大会については、毎年1月東京の日本武道館で開催されている書初め席書大会を秋田で開催しようという強い思いで、当時の秋田県立武道館の目黒館長、秋田県書道連盟の小笠原会長と一丸となった。弓道・剣道・華道・茶道・短歌・俳句・川柳・現代詩と、各分野の団体も盛り上げてくれ、唯一無二の全国に誇れる大会となった。大切なことは守りながらも、これからは皆様の手で新しい秋田県書道連盟を作り上げていくって欲しい。」

と、感謝と激励の言葉をいただきました。

## さらなる飛躍に向けて



理事長 後藤 武之

さる5月11日の理事会において理事長を拝命いたしました。これまでの研修部長、副理事長としての経験を踏まえ、微力ながら連盟運営に尽力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

前理事長の長沼雅彦先生には、24年もの長きにわたり連盟の舵取りをしていただきました。その間、中国・台湾・近県の書道団体との交流書展の開催や筆塚の建立、新春書初め席書大会の創設と運営など、多くの事業を推進され、そのご功績に心より敬意と感謝を申し上げます。

このたびの就任にあたり、先達が築いてこられた伝統を受け継ぎつつ、時代の変化に応じた新たな連盟の姿を考えていきたいと思っています。とりわけ喫緊の課題は会員数の減少です。私が入会した30年前には400名を超えていた会員も、現在は200名ほどです。趣味の多様化に伴う書道人口の減少など、要因は様々ですが、取り組み次第では会員拡充の可能性は十分にあると感じています。

かつては、県展や秋田書道展で入賞・入選された方々が連盟に加入されることが多くありましたが、近年では未加入のまま活動されている方も少なくありません。そうした方々にも参加いただけるよう、連盟の活動をより魅力的で、意義あるものとして広くアピールしていく必要

があります。そのためにも会員の皆さんには、今後の運営に向けた率直なご意見やご提案を、お寄せいただければ幸いです。当連盟は、書歴や所属を問わず、書道に関心を持つすべての方に門戸を開いています。ともに学び合い、交流を深めながら、書の文化を次の世代へつないでいきましょう。教室の仲間やお弟子さん、書友の皆さんにも、ぜひ入会をお勧めください。

また、「書道」がユネスコの無形文化遺産候補に選定されたことは、書道界にとつて大きな追い風です。順調に進めば、2026年11月頃の登録が見込まれており、県内でも書道への関心がさらに高まっていくことと思います。

本年度も、県書道連盟展、筆供養、実技講習会、新春書初め席書大会、新年研修会など、事業内容を必要に応じて見直しながら継続していきます。会員の皆さんと力を合わせ、連盟の活動をより充実させていきたいと思しますので、引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

最後になりますが、長年にわたつて連盟の運営にご尽力くださった、前副理事長・藤原豊道先生、前総務部長・三浦湯舟先生、前展覧会

部長・道川屋悟先生、前広告部長・上野泰夫先生をはじめ、ご退任された各部の役員の皆さんに、心より感謝を申し上げます。



理事会にて後藤新理事長あいさつ

## ひとりと



副理事長  
阿部 清 楓

最近あらゆるものが機械化され、人の手のぬくもり、心のあたたかさが薄れていくことは悲しいことです。「手づくり」等という言葉が喜ばれるのも、やさしい心に飢えているからでしょうか。

桜の花の一番美しい時は、散る時だそうです。「花吹雪」とは正に桜の散る様をいうのでしょうか。

散り際の美しさ、惜しまれながら散りゆく姿、そんなものに自分の人生も、かく有りたいと願うのは日本人特有のものかも知れませんが、変色した己の姿に気がつかずに、過去の栄光を引きずって、いつまでも枝にぶら下がっている花もありそうです……。

私もそこそこ歳を重ねて、少しは人生の酸いも甘いも分かる年になりながら、まだ周囲の者に不満を感じることもあり、既に変色が始まっている証しかも。変色の人生ではなく、色を重ねた深みを増した人生でありたいと思うのですが……。

私達が勉強しているこの書道も、初心者の方々の初々しい素朴な良さが……。

が、少し書けるようになってとだんだん消えて、これ見よがしの技巧ばかりを見せびらかすような作品に変っていく……。

最近、私の分野「近代詩文書」の作品に誤字、脱字が目立って多くなつたように思う。歌人に見れば、自分の作った歌が歪められて世間に出されることは悲しい事でしょう。

書家は詩や歌を作る時の原作者の心情まで計り知ることとは出来ませんが、せめて「その歌をお借りして、書かせていただく」という謙虚な気持ちは失いたくありませんね。

「僕は、いつも弟子に望むことはね、うまいとか下手とかそんな事はどうでも良い事なのよ。書道を通してもっと大切な——人間を学んでほしい——。人間として思いうやりのある温かい人になってほしいのよ」と熱っぽく語るその目は情熱がほとばしっておりまして。その人は、私の師である故後藤竹清でした。

今年の役員改選期に理事長の指名を受け、副理事長をお受けいたしました。よろしくお願い申し上げます。



## 感謝を胸に、未来へ書をつなぐ

副理事長  
山 谷 喜 元

このたび、副理事長という重責をお預かりすることになり、身の引き締まる思いであります。これまで本連盟を支えてこられた諸先輩方に深く敬意を表するとともに、このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

私が書道と出合い、今日まで歩んでこられたのは、何よりも良き師に恵まれたおかげであります。日々の指導を通して、基本を大切にするこの重要性を教えられました。基本があつてこそ応用があり、創作へとつながる。その確かさは、稽古を重ねることに身に染みております。また、古典に学ぶこともまた、書を志す者にとって欠かすことのできない姿勢だと考えております。先人の足跡に学びつつ、自らの筆を磨いていくことが、私の書道観の根幹を成しております。

一方で、現状には大きな課題があります。少子高齢化の影響により、会員の減少や子どもたちの書道人口の減少が顕著となっております。さらに、お稽古事の多様化

や価値観の変化もあり、組織として会員確保に苦慮しているのが現実です。この流れにどのような向き合い、次の世代へと書道の魅力を伝えていくかは、連盟にとっての大きな使命であると考えております。

本連盟の事業の中でも、毎年新春に開催される「書き初め席書大会」は特筆すべきものです。県立武道館を会場に、県内の文化団体や武道団体が一堂に会して行うこの催しは、書を通して心を新たにす意義深い行事であり、広く社会に発信できる貴重な場でもあります。参加する子どもたちの数が減少しているのは憂慮すべきことです。皆様のお知恵を拝借しながら、未来へとつなげていきたいと強く願っております。

副理事長として、これらの課題に正面から向き合いながら、会員の皆様と力を合わせて歩んでまいります。微力ではございますが、どうか今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 新総務部、始動します！

総務部長  
深 井 春 祥

この度の役員改選に伴い、総務部長を拝命しました深井春祥と申します。

昨年度まで広報部長を務めていました。総務部は何もかも初めてで、まだ全然慣れませんが、少しでも皆様のお役に立てるよう、微力ながら頑張ります。どうぞよろしく願います。

さて、当連盟の規約第2条に、本会の目的が書かれております。改めて読んでみますと、「秋田県における書道文化の向上及び振興を図るとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする」とあります。通常の連盟行事をベースとしながらも、限りある予算の中で、秋田県の書道を盛り上げていくため、我々は何をすべきか。これから皆様と一緒に考えていきたいと思ひます。

まずは、皆様が「入会して良かった」と思ってもらえる連盟でありたいと願っております。そのため環境づくりが総務部の仕事です。皆様からは忌憚のないご意見・ご要望をどんどんお寄せください。今後ともよろしく願ひいたします。

副部長 伊藤 清子・横山 由希  
部 員 池端 千佳・大黒 禾苑  
岡本真貴子・柿崎 真翠  
竹村 和佳・保坂 潤子

## 受け継ぐもの、伝える務め

研修部長  
竹 村 天 祐

このたび秋田県書道連盟研修部長を拝命いたしました竹村天祐です。不勉強でおよそ研修とは縁遠い私ですが、この任を仰せつかり身の引き締まる思いであります。大曲高校で芸術科書道を担当する現役教員として学びの現場に立ちながら、皆様と共に書に向き合えることを嬉しく思っております。

小中学生の頃には、六郷の高山泰英先生、朝子先生に、大曲高校では西宮徳子先生、内藤翠雲先生にご指導いただきました。さらに大東文化大学では青山杉雨先生をはじめ我が国書道界に綺羅星のごとく輝く先生方や明石春浦先生に、教員となつてからは加藤秋窓先生に出会い、多くの先生方からご指導いただきました。幾多の先生方から賜ったご恩は私のところで止めず、他の方へ次の世代へと繋いでいくことが私の務めと感じております。

筆を持つようご表現の意味を分かち合えるよう、微力ながら研修の企画・運営に努めてまいります。今後ともどうぞよろしく願ひ申し上げます。

副部長 会津千寿子  
部 員 阿部 公美・大山 美泉  
千田 寿山

## 展覧会部の仕事



展覧会部長  
伊藤 雅人

この度の役員改選で、展覧会部長を仰せつかりました伊藤雅人と申します。

昨年度までは副部長として部長の負担を少しでも軽くなるようにと務めてまいりました。がしかし、11社の後援申請から始まり、来年の連盟展会場の使用許可申請、連盟展開催要項の発送、そして取り纏め、パンフやハガキ作成のため印刷業者との打合せなど。これまではほぼ前部長が行っており、私の知らなかった事が多く只今勉強中です。

6月副部長の佐々木さん宅に男性4名が集まり役割分担を行いました。皆さん快く引き受けていただき安堵しております。

連盟展は会員皆様の協力を得て昨年並みの出品点数となりました。感謝いたします。それから、1月の小品書展・3月の秀作美術展とありますので、会員皆様の参加とご協力をお願い致します。

### 副部長 部 員

佐々木青爛 秋山由美子・伊藤 恵雪  
鎌田 江葉・小坂 白悠  
小松 璐秋・嶋野 青城  
津島 一美・富樫 春郷  
畑中 裕子・藤原 瑛翠  
保坂 省峰・堀井智香子  
松橋 聖泉・道川屋 悟

## 墨縁が広がりますように



広報部長  
長 沢 薫

この度、広報部長を拝命しました。よろしくお願い申し上げます。

主な活動は会報発行とHP管理運営です。会報は、主に連盟事業、会員所属団体の展覧会等を中心に掲載していきます。HPは、令和6年11月1日にリニューアルいたしました。トップページにあります「お知らせNEWS」では、各部から情報を発信していきます。

会報掲載用の会員所属団体の展覧会写真の提供をdodopod3131@gmail.comまでお願いできれば助かります。会報をHPに掲載するため、連盟会員ではないお客様が入っていない写真が望ましいからです。今の時代、色々配慮しながら掲載していく必要があります。ご理解ご協力の程、よろしく願います。

誰でもどこでもスマホで簡単にHPを見ることができるよう便利な時代になりました。本連盟の活動が、県内外へ、そして本県の書を愛好する次の世代へ届くことを心より願っています。

### 副部長 部 員

根 北楸 浅野 玉韻・佐藤紀公子  
佐藤 洲華・佐藤 聖賢  
菅原 玉峰・千田 寿山  
棟方 幸人

## つばやき、ばやきあれこれ



前広告部長  
上 野 泰 夫

先ずもって、書初め席書大会と小品書展の広告掲載にあたり、協賛をいただきました広告主の皆様、御礼申し上げます。今回は120社、約100万円の広告を取ることができました。16年前、書初めと小品書展（チャリティー書展）の開催にあたり、広告の必要性を提言したのが始まりでした。「広告部長が広告を取ってくるのが当たりまえ」と言われ、一人で担当してまいりました。お陰様で多くの広告主から協力をいただき、約1,300万円の収入でした。書初め席書大会の司会も思い出のひとつです。

司会、講演、広告営業をする中で様々な社長と知り合いました。書道展の内容を理解して気持ちよくついて下さる方、100億を超える売り上げがあっても書道には全く興味が無いといった広告を断る社長など色々でした。誰に誉められるわけでもなく広告取りは地味な仕事です。

また、県議、市議、銀行、学校長、社福協、商工会、公民館、寺院、包括支援センター、首都圏県人会、同窓会等のリップサービスにはまいりました。ある会社から

講演を頼まれて10年未だ実現していません。司会、講演、研修会講師等二千回を超えました。どこも取材には来てくれません。そんなもんです（笑）「人間関係を大事に生きている人間として最も大切なことではないか」と。

後藤理事長からは「広告部長として多大なご貢献をいただきましたことに心より感謝申し上げます」と労いのお手紙を頂戴しました。深謝です。

断捨離の年齢です。ネクタイが200本、スーツ、ジャケット、スラックス、セーター、カーディガン、本が5,000冊、スクラップブック600冊等、一段落したら整理しようと思っています。

広告部長として最後の寄稿となりました。おつきあいをいただきました広告主の皆様へ改めて御礼申し上げます。ありがとうございます。





# 第64回秋田県書道連盟展特集

8月29日(金)～9月1日(月)

初日 午後1時～午後5時

期間中 午前10時～午後5時

最終日 午前10時～午後3時

アトリオン2階美術展示ホール

初日の午前9時から搬入・展示作業が行われ、連盟会員97点の作品が展示されました。



## 震災復興応援メッセージコーナー

東日本大震災以降、秋田での国民文化祭(第29回国民文化祭・あきた2014)が平成26年に開催されました。時間の経過とともに風化しがちな被災地への思いを、書のもつメッセージ性を生かし、復興応援したいという趣旨ではじまりました。以降、秋田県書道連盟展では毎年通常展に加えて継続してきました。連盟会員から6点、高校生から124点、計130点が展示されました。



## ●出品高校

秋田北高校・聖霊学園高校

(指導者 後藤 武之さん)

能代松陽高校 (指導者 池端 千佳さん)

大曲高校 (指導者 竹村 天祐さん)

由利高校 (指導者 会津千寿子さん)

御所野子院高校 (指導者 相原 蕙花さん)

秋田商業高校 (指導者 長沢 薫さん)



# 筆供養神事 ～使い終えた愛用の筆に感謝して～

8月31日（日）、午後3時30分から日吉八幡神社にて開催されました。

2001年に連盟が建立した筆塚に、玉串を捧げた後、筆を納めました。文房四宝の一つ、筆に感謝し、書の上達を願うことを目的に毎年行っております。



感謝を込めて筆塚へ



筆塚

式次第  
開式の辞  
修祓  
祝詞奏上  
玉串奉奠  
筆を筆塚へ  
挨拶  
閉式の辞

式次第



後藤理事長よりあいさつ



宮司 番場千里さん

参加者		代表	
●前田祥穂先生教室		菅原 翔さん	
川原 百華	牛島 小学校 3年	菅原 翔 (代表)	四ツ小屋 小学校 5年
菅原 翔	城南 中学校 1年	藤原 優凛	城南 中学校 1年
川原 千鶴	城南 中学校 1年	菅原紫雲先生教室 (白峰書院)	
藤原 優凛	城南 中学校 1年	小坂 悠月	八橋 小学校 3年
●菅原紫雲先生教室 (白峰書院)		●小坂白悠先生教室 (白悠書院)	
小坂 悠月	八橋 小学校 3年	石塚 えいき	勝平 小学校 1年
●小坂白悠先生教室 (白悠書院)		石塚 紗英	勝平 小学校 4年
鎌田 ひまり (代表)	山王 中学校 3年	佐藤 帆音	秋田大学附属 小学校 4年
鎌田 ひまり	秋田大学附属 中学校 1年	佐藤 彩良	秋田大学附属 中学校 1年
鎌田 夏帆	秋田公立美術大学 1年	鎌田 ひまり	秋田公立美術大学 1年
●竹村和佳先生教室 (和佳書院)		●加藤陽真優	
加藤 陽真優	船越 小学校 5年	かとう ななひ	船越 小学校 1年



代表 鎌田ひまりさん



代表 菅原 翔さん

## 祝賀会

8月31日（日）、午後4時からアキタパークホテルにて開催されました。



参加賞のお土産を  
手にすることもたち

後藤理事長より、「みなさん大変立派で驚きました。日本では昔からものを大切にする心があります。これからも用具を大切に練習に励んでください。」と、参加したこどもたちへ温かいメッセージが送られました。

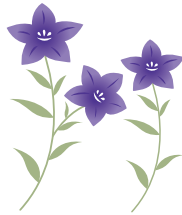


# これまでの主な展覧会(連盟会員)

## 第67回 秋田県美術展覧会(県展)

▼写真は、秋田魁新報社提供  
6月20日(金)～25日(水)  
にぎわい交流館AU 2階展示ホール

県展は、日本画・洋画・彫刻・工芸・書道・写真・デザイン・の7部門があり、各分野で活躍する作家7人が審査をしました。書道は黒田賢一さんが担当され、「全体的にレベルが高く、上位は古典古筆を礎に光るものが見受けられた」と講評。



### ◆特賞 (秋田県知事賞)

作品名「陳献章詩」



「喜び」

山口 顕 正



この度、特賞(秋田県知事賞)を賜り、心より感謝申し上げます。

このような素晴らしい荣誉に浴するとは夢にも思わず、感激しております。これも、日頃から温かくご指導してくださる先生方、そして連盟の皆さまの多大なるご支援の賜物と深く御礼申し上げます。

受賞作は、これまでの学びと、新たな表現への挑戦を込めたものです。制作中は試行錯誤の連続でしたが、筆を執るたびに書の難しさや書くことの喜びを改めて感じることができました。受賞したことは、私にとって大きな励みでもあり、今後の方向性が見えたように思います。今回の経験を糧に、これからも書の道を深く探究していきたいと考えております。

未熟ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

結びに、県展開催にご尽力くださった関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

### ◆奨励賞

奥山 朱鳳 (大仙市)  
佐藤 哉子 (横手市)  
一ノ関清山 (秋田市)  
恵比原琇琴 (秋田市)  
小松 璐秋 (秋田市)  
田村 芳汀 (秋田市)  
佐藤 直哉 (にかほ市)  
佐藤 聖賢 (秋田市)

### ◆入選

齊藤 英知 (秋田市)  
嶋野 青城 (秋田市)  
佐々木青爛 (秋田市)  
藤本 佳幸 (秋田市)  
石川 抱鶴 (秋田市)  
角田 萩瑱 (秋田市)  
伊藤富美子 (秋田市)  
大山 美泉 (秋田市)  
黒木 天簫 (秋田市)  
松橋 聖泉 (秋田市)  
竹内 史子 (秋田市)  
長沢 薫 (秋田市)  
大黒 禾苑 (秋田市)  
松塚 汪泉 (秋田市)  
鎌田 江葉 (秋田市)  
宇佐美桂月 (秋田市)  
古田 柯香 (秋田市)  
佐藤 珠苑 (北秋田市)  
池端 千佳 (能代市)



会場風景

毛利 美緒 (能代市)  
加賀谷里萩 (能代市)  
横山 由希 (男鹿市)  
伊藤 晃蘭 (五城目町)  
深井 春祥 (潟上市)  
佐藤 穎 (潟上市)  
菅原 紫雲 (潟上市)  
千田 寿山 (井川町)  
佐藤 晃山 (井川町)  
熊谷 貞子 (由利本荘市)  
打矢 敏昭 (由利本荘市)  
小松 清峯 (大仙市)  
千葉 園泉 (大仙市)  
齊藤 曉苑 (大仙市)  
伊藤 貴道 (大仙市)  
竹村 天祐 (大仙市)  
佐藤紀公子 (美郷町)  
鈴木 昭子 (横手市)  
佐々木采嘉 (横手市)  
木村 光楊 (湯沢市)  
高橋 暘雲 (湯沢市)

# 第41回 読売書法展

東北展 10月22日(水)～26日(日)  
山形美術館・山形県芸文美術館

## 読売奨励賞

奥山 朱鳳(大仙市) 調和体部門

## 秀逸

一ノ関 清山(秋田市) 漢字部門  
長沢 薫(秋田市) 漢字部門  
佐藤 珠苑(北秋田市) 漢字部門

## 会友出品

田村 芳汀(秋田市) 漢字部門  
野村 玉泉(秋田市) 漢字部門  
古田 柯香(秋田市) 漢字部門  
佐藤 穎瀉(大仙市) 漢字部門  
千葉 園泉(大仙市) 漢字部門  
松塚 汪泉(秋田市) 調和体部門  
加賀谷 萩(能代市) 調和体部門

## 入選

佐々木 樟芳(秋田市) 漢字部門  
佐藤 桂葉(秋田市) 漢字部門  
藤原 聖賢(秋田市) 漢字部門  
松橋 胡暢(秋田市) 漢字部門  
眞田 聖泉(横手市) 漢字部門

# 第76回 毎日書道展

東北山形展 10月15日(水)～19日(日)  
山形美術館

## 毎日賞

工藤 歩美(横手市) 大字  
打矢 博子(由利本荘市) 近代詩文

## 秀作賞

菅原 松香(秋田市) 漢字部門  
遠藤 芙美子(由利本荘市) 近代詩文

## 佳作賞

寺田 敦子(横手市) 漢字部門  
堀井 直子(由利本荘市) 大字  
安倍 波音子(にかほ市) 近代詩文  
工藤 由紀子(由利本荘市) 近代詩文

## 入選

毛利 美緒(能代市) 漢字部門  
竹村 和佳(男鹿市) 漢字部門  
大黒 禾苑(秋田市) 漢字部門

鈴木 木涛春(男鹿市) 漢字部門  
深井 春祥(潟上市) 漢字部門  
伊藤 京子(秋田市) かな部門  
草薙 悦子(秋田市) かな部門  
碩伸 子(秋田市) かな部門

## 総合書道用品販売

- ◎展覧会・企画・展示
- ◎〈表具〉〈額装〉〈軸装〉
- ◎各種展覧会搬入搬出承ります
- ◎文房四宝・低価格にて提供しております

株式会社 **クラヤ**

〒010-0952 秋田市山王新町4-5  
TEL 018-863-6001 FAX 018-863-6004  
ホームページアドレス <http://kuraya-shodou.com>  
メールアドレス [kuraya@seagreen.ocn.ne.jp](mailto:kuraya@seagreen.ocn.ne.jp)

保坂 省峰(秋田市) 漢字部門  
佐藤 晃山(井川町) 漢字部門  
柿沼 希和子(横手市) 漢字部門  
栗林 千春(横手市) 漢字部門  
柴田 布沙子(横手市) 漢字部門  
藤田 勢子(横手市) 漢字部門  
秋山 由美子(由利本荘市) 大字  
打矢 博子(由利本荘市) 大字  
大淵 麻弥(秋田市) 大字  
熊谷 貞子(由利本荘市) 大字  
須田 照子(由利本荘市) 大字  
竹内 美穂(にかほ市) 大字  
工藤 美穂(由利本荘市) 近代詩文  
齊藤 貴美(由利本荘市) 近代詩文  
三浦 遥(由利本荘市) 近代詩文



## これまでの主な展覧会（連盟会員所属団体）

### 第16回秋田草心会書展

(R7.7.12~14 アトリオン)



### 第63回秋田市書道会

(R7.3.14~17 アトリオン)



### 第6回秋田の書展

(R7.8.30~9.1 アトリオン)



### 第32回瀾の会小品展

(R7.4.11~13 アトリオン)



### 第40回書壇院秋田連盟展

(R7.9.5~8 アトリオン)



### 第56回六葉會書展

(R7.4.18~21 アトリオン)



### 第3回書友展

(R7.9.13~15 県立美術館)



### 第38回秋田一東会書道会

(R7.5.16~18 アトリオン)



### 第36回清芽会書展

(R7.6.6~9 由利本荘市文化交流館カダーレ)



## 会 員 募 集

日頃から本会の運営につきましては、格別のご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

本会は、より多くの書道を愛好する皆様に活躍と研修の場、作品発表の場、会員相互の情報交換の場などとしていただくため活動しております。

会員は随時募集しておりますので、事務局までお問い合わせ下さい。

事務局 深 井 春 祥

ホームページ <https://akita-shoren.jp>

### 物故者

- 植 田 清 寛 様 (由利本荘市)
- 長谷川 長 龍 様 (秋 田 市)
- 高 橋 抱 雲 様 (湯 沢 市)

連盟にご報告のあった方を掲載しています。

### 編集後記

東日本大震災が起こってから、高校生芸術書道の授業の一環で「3. 11における書文化への影響」として行ってきました。年々生徒の反応が薄れ……。それはそうです。14年が経過し、今の高校生は当時の記憶が鮮明にないのです。自分自身、震災遺構を巡り写真を見せて、伝える努力をしていくことも必要だと思っています。

奇跡の一本松は複製となりましたが、その堂々たる姿は素晴らしいものがありました。津波発生時の樹齢は173年、高さは27.5メートル。周囲の老齢の松に比べてもととりわけ大きかったそうです。ふと目を移すと、近くにはやなせたかし画『ヒヨロ松君』、やなせたかし氏からのメッセージ(「奇跡の一本松」保存事業完成式に際しいたいたメッセージ)がありました。最後の一文です。「これから先も苦難の道は果てしなく続くと思いますが、なるべく明るく楽しく希望を捨てずに頑張っていきたいものです。」

(広報部一同)

### 今後開催予定の主な展覧会

- 加藤了楓前衛書展  
令和7年10月3(金)～8日(水)  
あきた文化交流発信センター
- 第43回秋田墨滴窓友会書道展  
令和7年10月17日(金)～19日(日)  
花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」別館
- 石川抱鶴書展～可能性への挑戦～  
併催にいだこども園書道教室展  
令和7年11月1日(土)～3日(月)  
秋田県立美術館 県民ギャラリー
- 第24回日本書学研究会秋田一先会書展  
令和7年11月29日(土)～12月1日(月)  
アトリオン
- 第13回書遊会展  
令和8年3月6日(金)～9日(月)  
五城目町 (五城館)

総務部・広報部に届いている展覧会を掲載しております。引き続き、情報提供を宜しくお願いいたします。

### 今後開催予定の主な連盟関係行事

- 実技研修会  
令和7年10月12日(日)  
協働大町ビル
- 秋田県新春書初め席書大会  
令和8年1月11日 (日)  
県立武道館
- 新年研修会  
令和8年1月25日 (日)
- 秋田県新春書初め席書大会展覧会・新春小品書展  
令和8年1月29日 (木)～2月1日 (日)  
さがけホール
- 秋田県秀作美術展(芸術文化協会主催)  
令和8年2月26日 (木)～3月1日 (日)

那 墨痕あざやか 波

あなたの筆勢を伝える筆。  
「書」の心をうつす墨、紙。

那 波 紙 店

〒010-0921

秋田市大町四丁目3-35

☎ 018-823-4311 (代)



株式会社

塚田美術印刷

取締役会長 塚田 高  
代表取締役社長 塚田 大樹

本社工場/〒010-0921 秋田市大町一丁目6番6号

TEL 018(823)5551(代)